

協伸商会穀物レポート [KKR] Vol. 053

(2022/23年度 USDA米国農務省 12月12日発表)

[ハイライト]

① 今年度世界の穀物生産は北半球は早魃等による減産、南半球は大增産の展開。気候変動による作況リスクが高まる

今年の穀物生産は品目別には下記の通り増減まだら模様だが、地域別には南北半球で大きな違いが出た。具体的には、米国は早魃により前年比コーンが383⇒354と▼29百万ト、大豆も122⇒118と▼4百万ト減産、EUはコーン71⇒54と▼17百万ト、小麦138⇒134と▼4百万ト減産。一方南米ブラジルはコーン116⇒126と△10百万ト、大豆126⇒152と△26百万トの大增産。豪州小麦36⇒37と3年連続の大豊作と南北半球で対照的。今後も気候変動による作況リスクには注目が必要。

② ブラジルが世界最大の穀物輸出大国に台頭、今後の穀物増産と更なる輸出拡大の可能性が大きい

上記の作況状況からブラジルは穀物生産量292百万ト(前年比106.3%)と3億ト近くまで大幅拡大、逆に米国は532百万ト(前年比93.3%)と減産、輸出量はBRA137百万ト、米国130百万トと初めてBRAが輸出量で米国を上回る見通しである。今後BRAはセラード開発等で更なる増産と輸出拡大の可能性が高く世界の食糧需給の中でその存在感が高まっている。

③ 中国の穀物在庫占有率は6割を超え、中国除いた世界の実在庫率は11.6%と危険水域

かつて食糧自給自足を標榜していた中国は、現在大豆は1億ト近い輸入、またコーン18/小麦9百万トの輸入国となっている。一方その在庫数量は統計上は下記のように圧倒的に中国に偏在。その数量はコーン206/小麦144/米109/3品目合計459百万トと世界期末在庫数量748百万トの何と61.4%！中国の全穀物在庫率73.7%(コーン69.9%,小麦99.6%,米69.6%)と中国の年間消費量の3/4にもなる。逆に中国を除いた世界の食糧在庫率は11.6%(コーン8.9%、小麦14.5%、米17.7%)という極めて危うい状況であり、世界の穀物在庫は市場性が無く数字の信頼性も薄い中国を除いて考える必要がある。

1. 世界穀物需給の概要 (大豆を除く)

① 生産量:	2,747百万ト	(前年比1.5%	減↓	、	前月比0.3%	減↓)
② 消費量:	2,775百万ト	(前年比0.8%	減↓	、	前月比0.3%	減↓)
③ 貿易量:	487百万ト	(前年比3.9%	減↓	、	前月比0.3%	減↓)

2. とうもろこし

① 生産量:	1,169百万ト	(前年比4.0%	減↓	、	前月比0.3%	減↓)
② 消費量:	1,175百万ト	(前年比2.4%	減↓	、	前月比0.5%	減↓)
③ 貿易量:	181百万ト	(前年比9.8%	減↓	、	前月比0.3%	減↓)

④ 概況: 世界生産量は、UKRの戦禍と記録的豪雨による4百万ト減産等の結果前月比7百万ト減、前年比では米国早魃による減産が響き約5千万ト減少の見通し。消費量も米国/UKR等の減少により前年比約3千万ト減。貿易量も上記の通り前年比2千万トの減少見通し。価格は4月ピーク時8ドル超えから11月のUKR黒海輸出延長合意等により6ドル前半迄落ち着いてきた。期末在庫は298百万ト/在庫率26%と変わらず。うち中国206百万トと世界シェア69%と寡占状態。

⑤ 価格: **\$6.35/Bu** (前年\$5.86/Bu / 前月\$6.81/Bu) と前月比\$0.46 下落。

3. 小麦

① 生産量:	782百万ト	(前年比0.2%	増↑	、	前月比0.3%	減↓)
② 消費量:	790百万ト	(前年比0.5%	減↓	、	前月比0.1%	減↓)
③ 貿易量:	208百万ト	(前年比2.7%	増↑	、	前月比0.3%	減↓)

④ 概況: 世界生産量はARGの干ばつ予想から前月比2百万ト下方修正されたが豪州の3年連続の豊作もあり前年比では史上最高見通し変わらず。貿易量も2億トを超え順調。価格はUKR合意やドル高等から3月史上最高14.25ドルの半値レベル。期末在庫は267百万ト/在庫率34%と変動なし。うち中国144百万トと変わらず世界シェア54%と過半を超える。

⑤ 価格: **\$7.37/Bu** (前年\$7.95/Bu / 前月\$8.48/Bu) と前月比\$1.11 下落。

4. 大豆

① 生産量:	391百万ト	(前年比9.9%	増↑	、	前月比0.3%	増↑)
② 消費量:	380百万ト	(前年比4.6%	増↑	、	前月比0.7%	増↑)
③ 貿易量:	169百万ト	(前年比9.5%	増↑	、	前月比0.6%	増↑)

④ 概況: 大豆は生産～貿易まで全ての分野で順調であり前年比を大きく上回っている。これはブラジル生産が史上最高の1.5億トを超え輸出が9千万トに迫ってる事が要因、米国の3千万ト減産をカバーして余りある。価格も旺盛な需要で堅調。期末在庫は103百万ト/在庫率27%。うちBRA32/ARG24百万トで半分以上を占める見通し。

⑤ 価格: **\$14.39/Bu** (前年\$12.67/Bu / 前月\$14.52/Bu) と前月比\$0.13 下落。

世界の穀物・大豆等の需給

2022年12月12日
米国農務省発表： 単位100万トン

主要穀物世界の需給							
		生産量	総供給量	貿易量	総使用量	期末在庫量	
全穀物	2020/21	2,725	3,543	488	2,742	801	
	2021/22	2,797	3,598	510	2,805	793	
	2022/23	11月	2,746	3,540	487	2,777	763
	2022/23	12月	2,737	3,530	488	2,770	760
小麦	2020/21	775	1,073	203	782	290	
	2021/22	779	1,070	203	793	276	
	2022/23	11月	783	1,059	209	791	268
	2022/23	12月	781	1,057	211	790	267
粗粒穀物 (とうもろ こし等) 注1	2020/21	1,441	1,778	234	1,456	323	
	2021/22	1,503	1,825	250	1,491	334	
	2022/23	11月	1,460	1,794	225	1,468	326
	2022/23	12月	1,454	1,788	224	1,464	324
米	2020/21	509	692	51	503	188	
	2021/22	515	703	57	521	182	
	2022/23	11月	504	687	53	518	169
	2022/23	12月	503	686	54	517	169
大豆	2020/21	369	463	165	363	100	
	2021/22	356	456	154	360	96	
	2022/23	11月	391	485	169	380	105
	2022/23	12月	391	487	169	381	106

世界のとうもろこし需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	11月	307.68	1,168.39	177.60	1,175.30	182.74	300.76
	12月	307.09	1,161.86	176.42	1,170.55	181.63	298.40
アメリカ	11月	34.98	353.84	1.27	305.45	54.61	30.02
	12月	34.98	353.84	1.27	305.45	52.71	31.93
アルゼンチン	11月	1.49	55.00	0.01	14.00	41.00	1.49
	12月	1.49	55.00	0.01	14.00	41.00	1.49
ブラジル	11月	4.95	126.00	1.30	77.00	47.00	8.25
	12月	4.95	126.00	1.30	77.00	47.00	8.25
EU	11月	9.96	54.80	20.00	74.70	2.70	7.36
	12月	9.94	54.20	21.50	76.10	2.20	7.34
日本	11月	1.38	0.01	15.00	15.00	0.00	1.39
	12月	1.38	0.01	15.00	15.00	0.00	1.39
中国	11月	209.14	274.00	18.00	295.00	0.02	206.12
	12月	209.14	274.00	18.00	295.00	0.02	206.12
ロシア	11月	0.93	15.00	0.05	11.20	4.00	0.78
	12月	0.93	14.00	0.05	10.90	3.30	0.78
ウクライナ	11月	4.57	31.50	0.00	10.70	15.50	9.87
	12月	5.09	27.00	0.00	7.70	17.50	6.89

世界の大豆需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	11月	94.67	390.53	166.28	380.17	169.14	102.17
	12月	95.59	391.17	166.21	380.88	169.38	102.71
アメリカ	11月	7.45	118.27	0.41	64.48	55.66	5.99
	12月	7.45	118.27	0.41	64.48	55.66	5.99
アルゼンチン	11月	23.90	49.50	4.80	47.00	7.20	24.00
	12月	23.90	49.50	4.80	47.00	7.70	23.50
ブラジル	11月	23.34	152.00	0.75	55.35	89.50	31.24
	12月	23.81	152.00	0.75	55.35	89.50	31.71
中国	11月	31.79	18.40	98.00	116.59	0.10	31.50
	12月	31.79	18.40	98.00	116.59	0.10	31.50
EU	11月	1.13	2.47	14.80	16.78	0.22	1.40
	12月	1.55	2.47	14.40	16.48	0.25	1.69

世界の小麦需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	11月	276.31	782.68	202.59	791.17	208.65	267.82
	12月	276.27	780.59	204.30	789.53	210.85	267.33
アメリカ	11月	18.21	44.90	3.27	29.75	21.09	15.54
	12月	18.21	44.90	3.27	29.75	21.09	15.54
アルゼンチン	11月	2.08	15.50	0.01	6.15	10.00	1.43
	12月	2.08	12.50	0.01	6.15	7.50	0.93
オーストラリア	11月	3.50	34.50	0.20	8.55	26.00	3.65
	12月	3.50	36.60	0.20	8.55	27.50	4.25
カナダ	11月	3.67	35.00	0.60	9.10	26.00	4.17
	12月	3.67	33.82	0.60	8.55	26.00	3.55
EU	11月	13.43	134.30	6.00	109.25	35.00	9.48
	12月	13.36	134.30	7.00	108.25	36.00	10.41
中国	11月	141.76	138.00	9.50	144.00	0.90	144.36
	12月	141.76	138.00	9.50	144.00	0.90	144.36
インド	11月	19.50	103.00	0.03	104.00	6.50	12.03
	12月	19.50	103.00	0.03	104.00	6.25	12.28
ロシア	11月	11.09	91.00	0.30	45.00	42.00	15.39
	12月	11.09	91.00	0.30	45.00	43.00	14.39
ウクライナ	11月	5.81	20.50	0.10	10.70	11.00	4.71
	12月	5.81	20.50	0.10	9.70	12.50	4.21

脚注1：粗粒穀物はとうもろこし、マイロ、大麦、燕麦、ライ麦等の計で約80%がとうもろこしである。

脚注2：年度は穀物年度。地域・作物により異なる。例：アメリカ産とうもろこし、大豆：9月～8月。

世界の食品産業と穀物需給(9)

- ① 先月は、世界最大の穀物生産/輸出国である米国に於ける2020年以降の産地農家や穀物メジャー等の穀物貯蔵施設の急速な拡大による穀物集荷業界の構造変化について述べたが、今回はその中で特にメジャーを含む大手集荷業者のカントリーエレベーター(CE)から輸出エレベーター(PE)までの貯蔵施設拡大の状況を整理したい。
- ② 現在、米国に於ける穀物集荷規模は先月述べた通り農家保有67億bu=1.7億ト、集荷業者保有117億bu=2.9億ト、合計184億bu=4.6億トで集荷業者が約63%占めているが、その集荷業者間の施設保有状況はこの20年で大きく変容している。[表1]は東京農大が大手集荷業者15社のこの20年間の施設形態別「容量」と「施設数」の変化を一覧にしたものである。これを見ると「ABCD」穀物メジャーが大きくCEのシェアを落とし、代わりにCHS等の米国農協系/CGB等の日系(全農)/それにAndersonなどの独立系が大幅にシェアを拡大した。具体的には、集荷業者の総容量は表1の通り全体で83⇒117億bu(2.9億ト)と約4割増加したが、メジャーtop2社のADM/CGLはCEの容量で約7割、基数で半減、その結果全体容量でもADM/CGLはともに約3~2割程度減少した。一方、CHS/CGB/Anderson等は2~4倍増と飛躍的にその貯蔵能力を拡大。これをエレベーター基数の変動で見ると集約/大規模化の中で全体では約1,500基16%減少したが、逆にCHS 212⇒249/Gavilon(Conagra)27⇒105/CGB 59⇒98、と集荷拠点を増加させている。(表1の中で2011年比 顕著に増加=▲、顕著に減少=▼とした。)
- ③ このような大手集荷業者のCEの大幅減少の要因は、一つは生産農家のOn Farm保有施設の飛躍的拡大(55⇒67億bu/21%増)によって置き換えられていると言える。またそれ以上に大きな要因は大手業者によるCE/STE/TE等エレベーター施設のScrap & Builtがこの20年間に飛躍的に進んだことが挙げられる。具体的には、容量はCE 35%増、STE 2.2倍、TE 47%増と大幅に増加。1基あたり貯蔵能力は、CE 71%増3千ト、STE 35%増61千ト、TE 29%増の98千トとなりかなりの規模拡大が進んでいる。この中でやはり総合的にはCHS/Gavilon/CGBの伸びが著しい。
- ④ またADM/CGLの動きで注目は、前述の通り大幅なCEの削減により全体基数/容量は大きく縮小しているが、[表1]にある通り両社とも国内販売の基幹となるSTE/TEの容量はほぼ倍増近くまで規模拡大、輸出に繋がるRT/PEも現状維持に近く、[表2]の通り「ABCD」全体でみた各エレベーター形態別シェアはCEを除けばほぼ維持している。前々回、世界の穀物業界は1970年代の「ABCCD」時代から、幾多の淘汰/勃興の中で現状は新たな「ABCD」+α時代と位置付けたが北米における穀物集荷網の変容と新興勢力の台頭は注目である。(続く)

【表1】米国の大手集荷業者のエレベーター運営状況の変化(2001年~2021年)

企業グループ	2001年エレベーター種別容量(千ブッシェル)					
	PE	RE	TE	STE	CE他*	合計*
1 ADM	24,329	51,004	145,563	36,668	473,994	731,557
2 Cargill	47,443	44,968	69,021	51,581	389,589	602,601
3 Farmland Grain Division	3,253	10,047	152,672		22,232	188,204
4 Bunge	2,500	98,068	18,371	10,608	48,336	177,883
5 CHS	31,359	8,519	7,546	0	111,116	158,540
6 Peavey Co.	11,959	7,699	13,806	41,538	77,396	152,397
7 Riceland Foods, Inc.		2,344	22,498	66,221	11,301	102,364
8 Attebury Grain, Inc.			35,569	8,752	51,592	95,913
9 General Mills	17,369		38,731		29,900	86,000
10 The Andersons, Inc	7,900		52,460	550	19,090	80,000
11 Debruce Grain			37,452	4,007	21,957	63,416
12 ConAgra (=Gavilon)		4,700	17,405	15,130	23,326	60,561
13 CGB		20,589		14,072	19,839	54,500
14 Central Soya Co.			30,526	3,413	20,276	54,215
15 Producers Rice Mill			26,490		1,815	28,305
その他	65,753	125,875	247,709	278,175	4,989,032	5,706,544
アメリカ国内計	211,864	373,812	915,819	530,715	6,310,790	8,343,000



企業グループ	2021年エレベーター種別容量(千ブッシェル)					
	PE	RE	TE	STE	CE他*	合計*
1 ADM	▲ 43,308	▲ 45,567	▲ 248,151	▲ 65,367	▼ 106,150	▼ 508,543
2 Cargill	35,894	▲ 65,412	▲ 144,209	▲ 118,486	▼ 106,203	▼ 470,204
3 CHS	32,105	4,056	1,800	0	▲ 330,676	▲ 368,637
4 Gavilon	16,639	13,843	▲ 84,035	▲ 79,141	▲ 151,819	▲ 345,477
5 CGB		▲ 55,825	14,029	11,006	▲ 162,566	▲ 243,426
6 The Andersons, Inc.	20,871		107,397	8,018	39,227	175,513
7 Bunge	6,421	70,097	▲ 78,246	5,155	▼ 22,630	182,549
8 Landus Cooperative			914	115,476	51,527	167,917
9 Attebury Grain, Inc.			70,835	21,954	72,825	165,614
10 Heartland Co-op		510	26,894	23,262	114,190	164,856
11 The Scouler Company		550	1,880	33,677	94,793	130,900
12 New Cooperative, Inc.				25,916	92,131	118,047
13 Riceland Food, Inc.		1,716	29,720	77,669	2,170	111,275
14 Ag Processing, Inc.	3,000	0	9,525	5,700	83,775	102,000
15 Team Marketing Alliance	0	0	6,000	0	94,060	100,060
その他	96,671	149,870	524,596	590,997	7,035,059	8,397,193
アメリカ国内計	254,909	407,446	▲1,348,230	▲1,181,824	▲8,559,800	▲11,752,210

【表2】米国の穀物メジャーエレベーター・シェアの推移

エレベーターの種類	ABCD	
	2000年	2020年
PE (ポート)	42%	40%
RE (リバー)	53%	45%
TE (ターミナル)	25%	35%
STE (サブターミナル)	19%	16%
CE (カントリー) 他	14%	3%
全体	18%	10%

企業グループ	2001年エレベーター種別基数					
	PE	RE	TE	STE	CE他*	合計*
1 ADM	6	37	72	24	671	809
2 Cargill	12	43	16	29	322	421
3 CHS	3	7	4	0	198	212
4 Peavey Co.	4	7	7	32	23	72
5 Bunge	1	41	4	6	11	63
6 CGB		25		12	22	59
7 General Mills	2		12		37	51
8 Attebury Grain, Inc.			9	5	32	46
9 Riceland Foods, Inc.,	2	4	30	0	35	35
10 Farmland Grain Division	1	1	18		11	31
11 ConAgra (=Gavilon)		3	9	15	0	27
12 Perdue Farms, Inc.	1	3	2	1	18	25
13 Bartlett and Company		2	5		15	22
14 Central Soya Co., Inc.			7	3	10	20
15 West Central Cooperative			7		13	20
その他	21	89	133	133	7,529	7,905
アメリカ国内計	50	260	302	296	8,910	9,818



企業グループ	2021年エレベーター種別基数					
	PE	RE	TE	STE	CE他*	合計*
1 ADM	9	39	69	▲ 42	▼ 283	▼ 441
2 Cargill	8	37	▲ 31	▲ 59	▼ 145	▼ 279
3 CHS	4	5	1	0	▲ 240	▲ 249
4 Gavilon	3	11	8	▲ 35	▲ 49	▲ 105
5 CGB		▲ 38	6	7	▲ 47	▲ 98
6 The Andersons, Inc.	4		29	8	33	74
7 Team Marketing Alliance			2		78	80
8 Attebury grain, Inc.			12	8	58	78
8 The Scouler Company		1	2	9	65	77
10 Heartland Co-op		1	5	8	58	72
11 Bunge	1	31	17	3	11	63
12 Landus Cooperative			1	54	0	55
13 Farmers Cooperative		1	6	1	46	54
14 Frontier Cooperative Co.				6	37	43
15 Ag Processing, Inc.	1		2	1	39	42
その他	17	69	156	247	5,965	6,453
アメリカ国内計	45	233	346	▲ 488	▼ 7,151	▼ 8,263